

(9) 四国



四国地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は弱含んでいる。

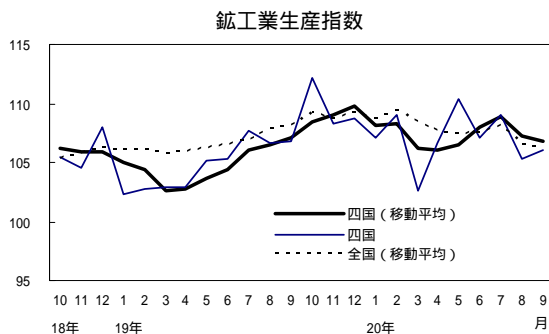
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年8月）	今回（平成20年11月）	
景況判断	回復の動きに足踏み	弱含み	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに減少	
住宅建設	減少	大幅に増加	
雇用情勢	改善の動きに足踏み	弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

化学は、医薬品関連で動きがあったことに加え、定期点検終了の影響もあったことから、増加している。電気機械は、照明やカーライト向け光電変換素子（LED）が好調だったものの、自動車や家電向けの半導体集積回路が振るわなかったことから、減少している。食料品・たばこは、栄養補助食品や調味料が好調だったことに加え、気温が高めに推移し、清涼飲料水に動きがみられたことから、増加している。パルプ・紙は、新聞紙やチラシ・広告などの需要減により、新聞巻取紙や塗工紙が低調であったことから、減少している。一般機械は、海外需要に一服感があり、船舶搭載用貯蔵槽や化学繊維機械などが低調であったことから、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

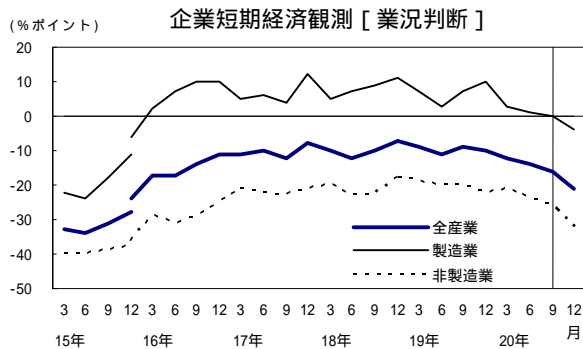
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	17.1	2.1	6.5	0.8	1.7
電気機械	15.4	2.4	6.0	2.1	39.1
食料品	13.6	4.4	1.7	0.2	0.8
パルプ・紙	11.8	1.6	0.7	3.6	5.1
一般機械	8.9	7.1	9.8	6.3	1.7
鉱工業	100.0	1.7	1.1	1.9	2.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

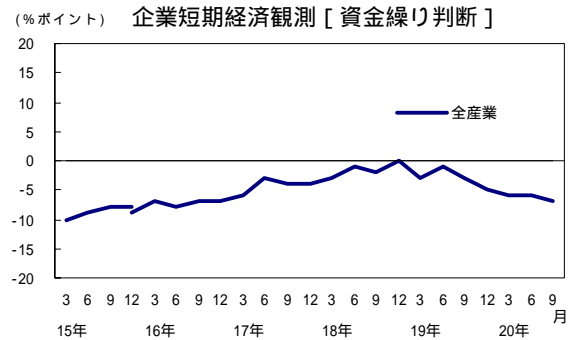
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

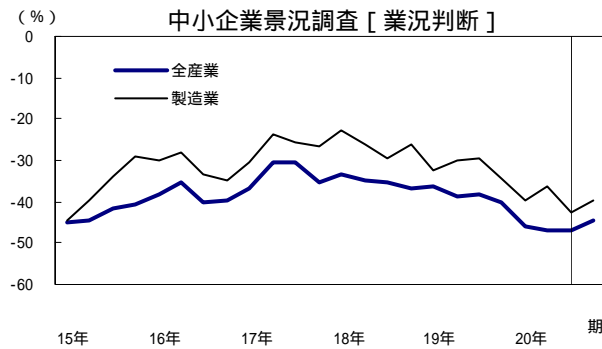
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年12月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

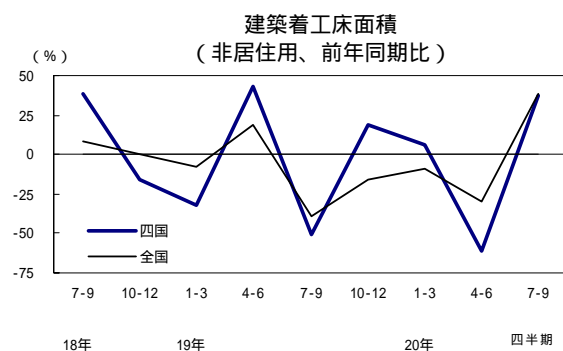
「資材価格の上昇が一段落し、一部では低下に転じてきた。中でも鉄鋼関係、生コンは、かなり値下げをしてきており、仕入価格は落ち着いてきたが、全体的にはまだまだ厳しい状況が続いている(建設業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	16.1	18.2 [18.4]
製造業	23.2	25.5 [25.0]
非製造業	7.8	8.4 [9.4]

(備考)[]は前回(6月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

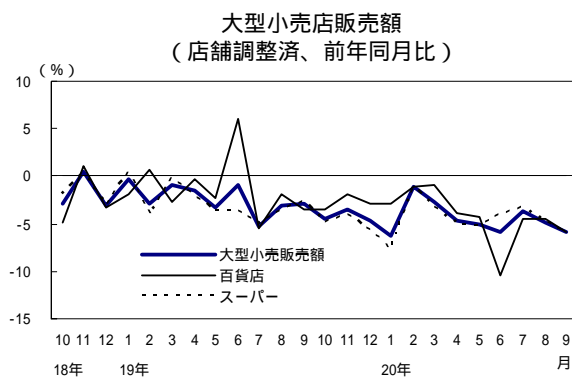
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、一部で夏物クリアランスセール効果がみられたものの、生活防衛意識による買い控えや新規大型店の相次ぐ出店の影響により、前年を下回った。8月は、気温が高く推移したことにより秋物衣料が不調であり、買い控えや新規大型店の影響も続いたことから、前年を下回った。9月は、買い控えに加え、前年より土・日が1日ずつ少なかったことから、15か月連続で前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、四国地区の10月の売上高は前年同月比で5.0%減となっている。

スーパーは、気温が高めに推移したことにより、清涼飲料水を中心に飲食料品が好調だったものの、衣料品、身の回り品に買い控えの傾向が強く、相次ぐ新規大型店の出店の影響もあり、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「度重なる食の問題で、食物に対して過敏になっていることに加え、金融不安や景気後退がささやかれる状況下では、外食する気分になりにくい(一般レストラン)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

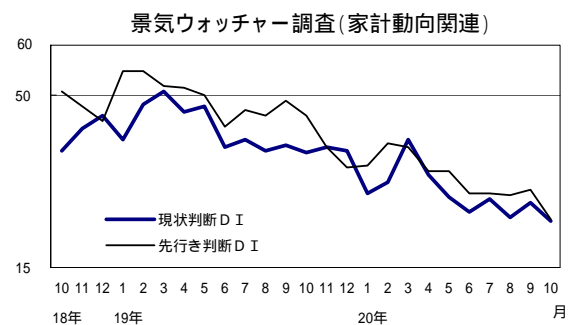
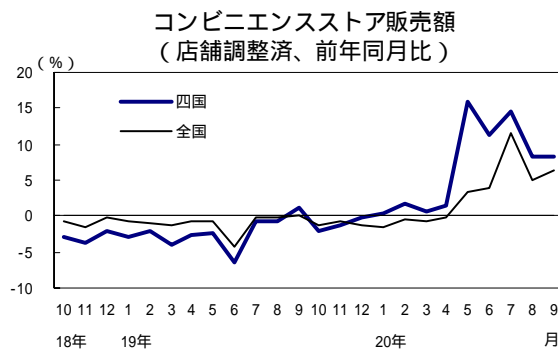


(前年同期比、%)

	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.2	3.5	5.2	4.7
百貨店	2.7	1.8	6.2	4.9
スーパー	4.9	4.3	4.8	4.6
コンビニ	1.2	0.9	9.6	10.3
景気ウォッチャー	38.6	34.3	29.7	27.3

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

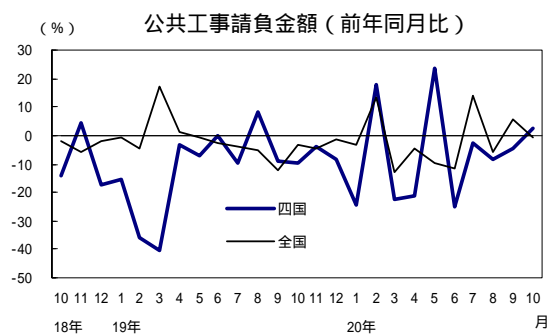
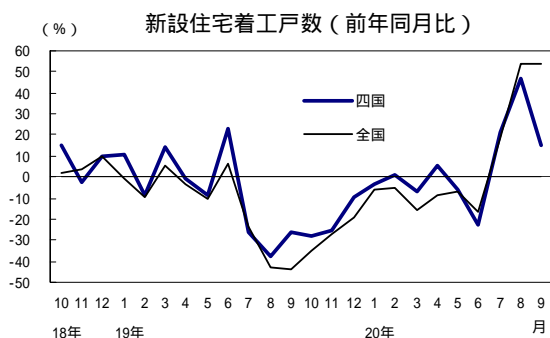
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、持家、貸家、分譲で前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

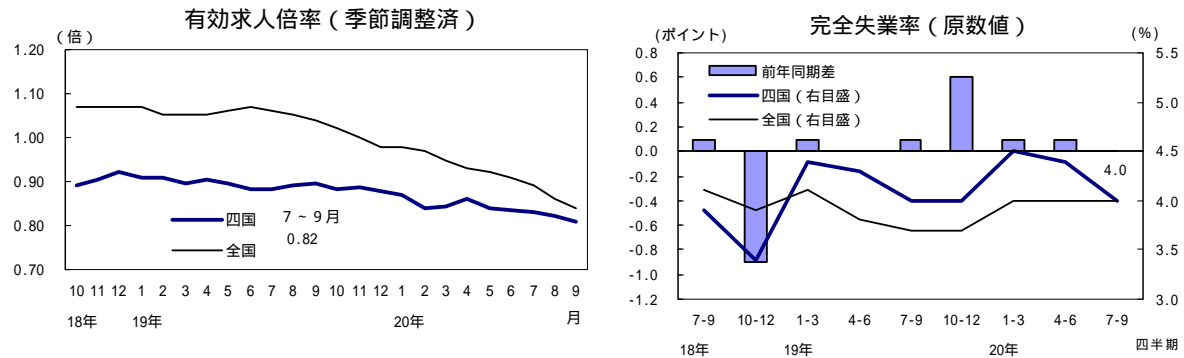


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は弱含んでいる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

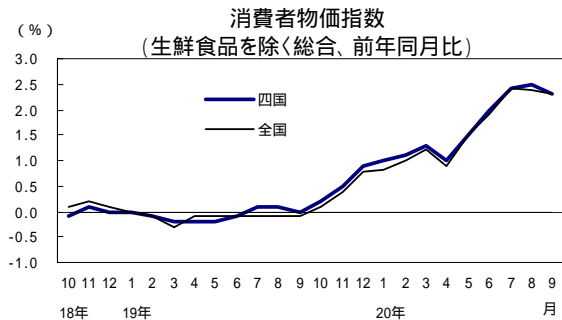
「新規求人は、建設業、運輸業等を中心に、ほとんどの産業で前年同月を下回った。正社員をリストラしてパートで補おうとする動きが見られた(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月	20年10月
倒産件数	92	83	101	123	42
(前年比)	1.1	5.1	4.7	19.4	10.5
負債総額	197	252	345	375	75
(前年比)	51.3	78.8	23.8	22.3	33.2



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・販売先である全ての業態の人が不景気を口にして、台替えの見合わせをしている。夏のガソリン高騰時より、販売は冷え込んでいる(乗用車販売店)

<先行き>

・物価が低下傾向であり、住宅優遇税の延長、ドル安・円高による原材料の下落といった良い材料も見られるが、全体としては下向き方向である(木材木製品製造業)

